

平成じゃぬけの碑



夏らしい暑い日だった
昼過ぎから雲が出てきた
三時過ぎから雨が降ってきた
猛烈な雨になった
一時間程白い雨が降った

平成二十六年七月九日午後五時四十分
麓では雨が降りやむ頃「蛇抜け」が出た
南木曾山の頂から蛇抜けが出てきた
堰堤を乗り越え梨子沢を一気に下ってきた
幾つもの堰堤がこらえた
その上を轟音とともに乗り越えてきた
道路を橋を線路を住宅を呑み込んだ

悲しみが町を襲った

たくさんの人々に助けてもらった
国県多くの組織に助けてもらった
町は蘇った山も川も蘇った
ここに住み続ける私達も今こそ蘇る

この教訓を防災の礎とするため
本災害で発生した石で碑を残す

平成二十九年夏 南木曾町

南木曾町の南木曾駅から中山道を北へ歩くと、ほどなく小さな沢にかかる橋があります。その橋名板には、「蛇抜沢」「蛇抜橋」と書かれています。“蛇抜け”とは、土石流（災害）を意味し、歴史的に大きな災害をたびたび経験してきた木曾地方の人々には、よく知られている言葉です。昭和28年7月20日早朝に当時の読書村伊勢小屋沢で起きた「蛇抜け」により犠牲になった3名の方を偲んで立てられた「蛇ぬけの碑」には、次のような言葉が記されています。

『白い雨が降るとぬける 尾(根)の先 谷(の)出口 (お)宮の前(には家を建てるな)
雨に風が加わると危ない 長雨後 谷の水が急に止まったらぬける 蛇ぬけの水は黒い
蛇ぬけの前にはきな臭い匂いがする』 ()内は追記